

Weekly Report

事務局：460-0003

名古屋市中区錦1-13-19

名錦ビル7F

TEL: 052-211-3803

FAX: 052-211-2623

MAIL: 2760_nagoya@mizuho-rc.jp

URL: http://www.mizuho-rc.jp/

創会立：1980年(昭和55年)1月10日

幹事長：亀井 直人

副幹事長：鳥山 政明

クラブ広報委員：杉山 裕一

例会日：毎週木曜日 PM12:30～

会場：ヒルトン名古屋

2025-26年度

名古屋瑞穂ロータリークラブ

会長のテーマ

「瑞穂ロータリーを理解し、そして楽しむ!」

2025-26年度

国際ロータリーのテーマ

よいことのために手を取りあおう

～環境月間～

クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

第2168回例会

2026年4月16日(木) 晴 第32回

司会：福岡逸人 会場委員

斉唱：「それでこそロータリー」「四つのテスト」

会長挨拶

亀井直人 会長

皆さん、こんにちは。本日は「北前船(きたまえぶね)」についてお話しさせていただきます。北前船とは、江戸時代から明治時代初期にかけて活躍した商船で、日本海沿岸と大阪・京都などの上方を結んだ重要な海の物流ネットワークです。「北の廻り船」が語源で、のちに「北前船」という呼び名が定着しました。



北前船が本格的に活躍しはじめたのは、江戸時代の中期ごろです。当時、物資を大量に効率よく運ぶには、陸路よりも海上輸送はるかに有利でした。そうして発達したのが、日本海を經由して瀬戸内海を通り、大阪まで至る「西廻り航路」です。この航路では、北海道や北陸から運ばれてくる海産物や米、木材などを上方に運ぶ一方、帰りには大阪で仕入れた酒や醤油、綿製品などを各地に売りさばっていました。このような双方向の貿易は「買積み(かいつみ)」と呼ばれ、商人たちは一航海で大きな利益を上げるチャンスを持っていました。

特に使用された船は「弁才船(べさいせん)」という大型の帆船で、一度に大量の荷物を運ぶことができました。北前船の商人は、自らの裁量で品物を仕入れ、売り先を選び、寄港地ごとに最も利益の出る取引を行っていました。初期は大阪から北海道まで年一往復がやっとでした。帆が一枚しかなく追い風の順風でないと前進できず、向かい風や荒天の場合は何日も途中の港に停泊して風待ちをしていたそうです。その後、向かい風でもジグザグのコースで進む航法「間切り走り」の技術が普及し、木綿で織った厚手の帆布「松右衛門帆」が発明されるなどして二往復と出来るようになりました。

儲けは一航海千両、今のお金で6千万円から1億円近くとされています。船を造るのに千両、最初の荷物の買入れに千両かかるので3年目からは丸儲けだと言われていました。しかし嵐に会うと船も荷物も全て船主のものでしたので損失も大きかったとの事です。

北前船の活動は、単なる物の流通にとどまりませんでした。大阪や京都の文化や技術が地方へと伝わり、酒造りや建築様式、さらには茶道や歌舞伎といった娯楽文化までもが各地に広がっていきました。これによって、地方の文化や産業も大いに発展しました。また、北前船で財を成した豪商も数多く存在します。彼らは寺社の建立や港の整備など、地域社会に貢献する活動も行っていました。北前船はまさに、物・人・文化を結び「動く商業都市」と言えるでしょう。

しかし、時代の流れとともに、北前船の時代は終わりを迎えます。明治時代に入り、蒸気船の普及や鉄道の整備が進むと、風任せの帆船よりも安定した輸送手段が主流となりました。さらに、国際貿易の拡大により、北前船の役割は徐々に失われていきました。

そのような中でも、変化に対応して北洋漁業への転身や、海外定期航路の開設、タンカーによる物資輸送など新たな事業に乗り出し長く活躍した北前船主もいたそうです。いつの時代も適応能力が高い人が生き残れるようです。

出席報告

広瀬弘幸 出席委員

会員70名 出席54名 (出席計算人数58名)

出席率 84.38%

ニコボックス

広瀬弘幸 ニコボックス委員

・4/28は、41回目の結婚記念日です。

関谷 俊征さん

- ・春の家族会で、当社の一の谷に多数お越しいただき誠にありがとうございました。 **本多 誠之さん**
- ・昨日の泉さんの会にご協力いただき、ありがとうございました。幹事として至らないことが多々ありましたが、皆さんに盛り上げて頂き、感謝です。 **今川 知也さん**
- ・孫が、この4月5日に愛知医大に入学できました。孫から新しい刺激をもらって、私ももう少し仕事を続けたいと思っています。 **田中 英雄さん**
- ・泉さんを囲む会、参加ありがとうございました。 **内田 久利さん**
- ・春の家族会では、本多さん、北岡さんはじめ親睦委員会の皆さん大変お世話になりました。大変おいしい1日でした。 **森 裕之さん**
- ・春の家族会楽しかったです。北岡さん、本多さんありがとうございました。まだ正式決定ではないのですが、名古屋場所の大塚部屋稽古場が日比野場外市場で決まりそうです。今から楽しみです。 **萩原 孝則さん**
- ・妻の誕生日に綺麗なお花ありがとうございました。 **堀 慎治さん**
- ・妻の誕生日にお花をありがとうございました。 **安井 友康さん**
- ・日曜日、熱田RAC主催のウォークインブルーに横山さんと参加しました。晴天の中、健康的な1日を過ごしてきました。 **松田 浩孝さん**
- ・今月に入って、瑞穂ロータリーメンバーの多くの方々に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。 **田中 宏さん**
- ・春の家族会、参加された皆様お疲れ様でした。ありがとうございました。不手際があり、ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。本多さん色々お世話になりました。ありがとうございました。 **北岡 寿人さん**
- ・横山さんご入会おめでとうございます。一緒にロータリーライフを楽しみましょう!!水谷さんイニシエーションスピーチ頑張ってください! **押村 宣広さん**
- ・横山さん、ようこそ瑞穂RCへ!!先日私達の仲間が詐欺事件に巻き込まれました。皆様気をつけてください。 **鈴木 淑久さん**
- ・本日のイニシエーションスピーチよろしくお祈りします。 **水谷 幸康さん**
- ・水谷幸康さん、イニシエーションスピーチ楽しみにしています。 **鳥山 政明さん 長谷川 隆さん 鈴木 雅登さん 村上 学さん 渡邊 将之さん 杉江 建亮さん 福岡 逸人さん 加藤 直大さん 田中 良知さん 花井芳太郎さん 落合 徹哉さん 生川 昌樹さん 荻野 達朗さん**

幹事報告

鳥山政明 幹事

- ・4/16(木) 13:40～新旧理事会・クラブアッセンブリー 4F「美杉の間」
- ・4/23(木) I.D.M. 時間：18:00～20:00(受付：17:30～)
 場所：愛知芸術文化センター10階「ウルフギヤング・バック」
- ・4/30(木)・5/7(木)R規定により休会
- ・ガバナー事務所及び事務局GW休暇 4/29(祝)～5/6(祝・水)

新会員入会式

新会員：横山敦信さん

横山敦信と申します。私は平成元年に設立された中部菱成株という会社で、熱田金山で37年やっていた会社の2代目でございます。入会を認めていただき、皆様とのご縁をいただきましたこと改めて感謝申し上げます。至らないことが多いかとは思いますが、いろいろご指導のほどよろしくお祈りいたします。瑞穂RCの活動を通じて、地域のため、社会のために少しでもお役に立てればと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお祈りいたします。



委員会・同好会報告

ゴルフ部会3月度 (464回)

開催日:4月10日(金)

緑ヶ丘カンツリークラブにて第464回ゴルフ部会が開催されました。

氏名	グロス	HDCP	ネット
優勝 杉江 建亮さん	39	2.4	36.6
2位 福岡 逸人さん	38	3.6	34.4
3位 村上 学さん	48	12	36.0

皆さん、改めてこんにちは。只今ご紹介いただきました、株式会社涼仙ゴルフ倶楽部の水谷幸康です。まずは名古屋瑞穂ロータリークラブにご推薦いただきました泉恵一さん、加藤直大さんをはじめ私の入会をご承認いただきましたメンバーの皆様方に改めて感謝申し上げます。

私は1975年2月17日に父：水谷紀夫、母：友紀子の次男として生まれました。出生地は三重県桑名市です。父方の祖父が大型重機土木工事を得意とする建設会社を営んでおり、父はそこに勤めておりました。その為、私の幼少期には国内外の現場を飛び回り、家にはほとんどいなかったように記憶しています。そのこともあって、一人遊び、特に粘土遊びなどをして過ごしていたと母が教えてくれました。

1981年、小学校に入っからはジャッキーチェーンと特攻野郎Aチームに夢中になりました。特にジャッキーチェーンへの憧れが強く、真似事ばかりしていた私を心配して、母が家庭教師をつけてくれました。その家庭教師とは将棋ばかりしていたように覚えています。今思えば勉強に興味がない私の対策として、将棋で考える力を養おうとしてくれたのだと思います。

中学校では、サッカー部に入りました。朝練が嫌だったからなのか、腹痛に悩まされるようになり、毎朝、百草丸を服用して登校するようになりました。朝練に出ない私がレギュラーになれる訳もなく、万年補欠で3年間を過ごしたのも今では良い思い出です。

高校は、親戚の叔母に勧められた学校に進学し、イチローさんの後輩として名古屋に通い始めることになりました。この頃から名古屋には縁があったように思います。高校時代、学校の部活動はせず、ゲームセンターで友達と楽しくコミュニケーションを取ることを日課にしていました。こんな調子だったので大学進学という選択肢はなく、また、収入を早く得たいと思っていたこともあり就職とを考えていましたが、父の部下の方から猛烈に反対され、渋谷専門学校に進学することになりました。

免許を取得し、車を運転できるようになり、行動範囲が一気に広がりました。この頃の趣味は公開とドライブ。ここで憧れていたジャッキーチェーンが私の中に再登場します。1981年に公開された映画「キャンボール」は、北アメリカ大陸を市販車でどっぴりく横断できるかを競う、非公認レースをモチーフにした映画です。そのキャストとしてジャッキーチェーンが日本人コンビとして登場します。私はそれを真似て、友達と夜な夜な遠方の目的地を目指し、交通ルールを守って安全にレースをしていました。この時の友達とは30年以上経った今も年に数回集まっています。

学生生活の最後の頃にはバンドに誘われ、ビジュアル系ロックバンド「LUNA SEA」のコピーバンドのボーカルを担当しました。この経験から自分は歌が上手いと思い込んでいましたが、最近になり名古屋瑞穂ロータリークラブの田中宏さん、大和直樹さん、加藤直大さんの歌を聴いて、ゴルフだけじゃなく歌でもアベレージプレイヤーなんだと思い知らされました。バンド活動は歌詞を覚えず1番を繰り返して歌っていたため、いつの間にか誘われなくなりました。

いよいよ就職です。親戚の叔母から私が見つけてきた就職先は駄目だと言われて、代わりに勧められた会社が「中部キャタピラー三菱建機販売株式会社」という会社で、卒業と同時に就職することになりました。振り返って考えると、高校、専門、就職と、周りの方のおかげのおかげで、後悔の無い道を歩んでくれたのかと思っています。採用では営業と聞いていたのに、メカニックでの配置となり、ちょっと納得をしていなかったのを覚えています。

そんな中、興味を持てるものと出会いました。それは「スイベルジョイント」です。皆さん、油圧ショベルをご存じだと思いますが、油圧ショベルは上部旋回体、下部走行体、作業装置で構成されています。上部旋回体はレバー一つで何回転も回ることが出来るのですが、これが、当時、どうしても私には理解出来ませんでした。そのため教育担当者を質問攻めにし、その説明を聞いても理解が出来なかったため、資料を読みあさり理解しようとしていました。その答えが「スイベルジョイント」でした。この装置により何回転しても油圧伝導が可能であることを理解しました。ここから油圧回路に興味を持ち勉強し、他のメカニックに対して説明ができるレベルとなりました。

この頃は、メカニックの愉快的な仲間達と、学びが多く、遣り甲斐のある日々を過ごしていましたが、突然、営業部への異動の話が来ました。最初はなりたかった営業ですが、この時はメカニックの楽しさに目覚めていたもので断りました。しかし、「異動にNOは無い」と通告され、嫌々ながらも異動しました。

営業部では、パソコンを使ったワープロ作業を指示されて黙々とその作業を行っていました。パソコンに詳しい先輩からエクセルの関数の活用を勧められて、私の作業がワープロからパソコンへと進化していききました。今までの作業が簡単な関数で、大幅に時間短縮されることに快感を覚え、もっと便利にならないかと学生時代には見向きもしなかった参考書も購入し、どんな作業の効率化を図っていききました。

次にエン지니어というポジションで、リサイクルマーケット専門の営業支援、小型建設機械の製品教育を任せられました。リサイクルマーケットでの活動は、主にお客様の作業の効率化を機械によって行う提案活動をしていました。この分野で当時圧倒的なシェアを誇っていたのは他社の競合製品であり、中部キャタピラー三菱の実績はゼロでした。そのため同僚セールスマンの関心も低かったのですが、地道な活動により、支援依頼の件数も徐々に増え、少しずつですが受注出来るようになりました。0だった市場に1台販売したときの喜びは今でも覚えています。

この成果には上司が大きく関わっています。通常、販売実績の無い機械へのプロモーション費用は削られることが一般的と思いますが、私の活動に理解いただき、何となく予算を与えてもらえました。結果としては、その費用の何倍もの利益を会社に還元することが出来ました。その上司の方でなければゼロ行進を止めることは出来なかったと思います。今も、その上司の方の姿勢を理想として行動しています。

2003年、10年間付き合っていた女性と結婚をしました。その翌年の2004年に第一子の男の子に恵まれました。2006年、子育て奮闘中の頃、大型重機土木工事の会社から独立し涼仙ゴルフ倶楽部を建設し経営を行っていた父から「戻ってゴルフ場にこないか」と電話がありました。その時の父の声は気のせいなのか弱々しく聞こえ、「これは戻らなければならない」と思ったのを覚えています。そして11年と9ヶ月働いたキャタピラーを退職しました。退職5日後の2007年1月2日から涼仙ゴルフ倶楽部に勤める事となりました。

涼仙での役割は支配人。前職では10年以上ずっと平社員だった自分に、突然、部下が100人いる支配人職を任せられるとは思っておらず、戸惑いながらの日々を過ごしていたのを覚えています。入社して直ぐの仕事は会員へのご挨拶と毎日のように起こる苦情への対応と謝罪でした。ミスが多い部署はフロント部で、経験の長いスタッフが退職し新人ばかりだったことが主な要因でした。急ぎ再発防止の仕組み作りを行い、徐々に苦情は減っていききました。

2010年、少し仕事にも慣れてきたタイミングで名古屋青年会議所に入会しました。こちらでの活動については父が余り快く思っていなかったため、中々参加することが出来ず、ほぼスリープ状態でしたが、最終年度だけは何か父にも理解いただき、漸く、まともな活動をするこ

とが出来ました。

たった1年の活動でしたが、この時ともに苦勞した仲間とは今でも親しくさせていただいています。ちなみに私の推薦者でもある加藤直大さんとは、名古屋青年会議所でご縁をいただきました。加藤さんは私より年下ですが、私より名古屋青年会議所での入会年度が早かったこともあり、そこで上下関係が出来上がりました。それを今も真摯に守っています。そして、2015年、青年会議所を卒業しました。

2016年、次は名古屋商工会議所若鯨会に入会しました。入会前の審査を鈴木雅登さんにしていただき、危なく落とされそうになりましたが、色々事情を説明して何とか通っていました。若鯨会では、青年会議所での反省を活かして、しっかりと会にコミットしてリーダーまで務めさせていただくことができました。できる限りNOとは言わず、与えられた役割は受けていたので、恥ずかしい思いも沢山させていただき、精神的にも成長する機会となりました。

2018年7月26日に父が他界しました。入院していたものの命に関わるような病気ではないと本人も周りも思っていましたので、本当に突然のお別れとなりました。そんな状況だった為、今後の経営について父から遺言を聞くこともできませんでした。生前も、あまり父と経営についての話をしなかったため、どのような苦勞してきたのか、どのような思いで会社を立ち上げて経営してきたのかも聞いたことはありませんでした。そのぼろぼろと抜けていた部分を補ってくれたのが、父が遺してくれた自叙伝です。そこには父の若かった時から亡くなる少し前までの記録が残されていました。この機会に涼仙ゴルフ倶楽部の誕生の話を少しさせてください。

涼仙ゴルフ倶楽部の土地は、昭和40年代半ばから、員弁町と地元住民の方々、事業会社が所有権を巡り争いを繰り返していた土地でした。その係争中にもかかわらず事業会社は土砂採取を目的に、木をなぎなぎと伐採し、大地を深く削り取り、作業で出たヘドロを溜め込んでいたため、大雨や地震発生時には地元の村落に甚大な被害を及ぼす恐れのある状態となっていました。

1988年、この問題を解決して欲しいと、行政当局の員弁町と住民の方々からの要請を受け、父、水谷紀夫は、この問題に介入することとなりました。1989年5月、延々と続いた裁判が和解。和解成立後、町長から「所有権を得たからには、梅雨も近づいているので、ヘドロ池の流出防止策を急がなくては」との強い要望を受け、防災工事に取り組みました。そして、1990年5月、防災工事も概ね終え安全な土地を取り戻しました。

1990年12月には、ゴルフ場の開発許可を取得、1992年7月26日に開場しました。初代理事長には当時中部電力の会長をお務めの松永亀三郎様に就任いただきました。その松永様が残された「会員が矜持を掲ぐことのできるゴルフ場に仕上げたい」との言葉を、涼仙ゴルフ倶楽部の目指すべき理想と受け止め、経営理念として掲げました。

そして様々な問題を乗り越えながら26年間、父は初代理事長の言葉を胸に全身全霊で、従業員とゴルフ場を守り、理想を追求しつづけて、最後まで駆け抜け、涼仙ゴルフ倶楽部の開場日と同じ日に他界しました。

この自叙伝を読み終え、自分に残された重責を再認識しました。今まで、何も成し遂げてこなかった自分にとって残された責任が大きすぎると逃げ出したい気持ちにはなりましたが、能力があるないとは関係なく父の思いを紡いでいくのは自分しかいないと思ひ込み形で、経営者として歩み始めました。父と自分はまったくタイプが違います。当然、能力も経験値も遠く及ばないので、同じやり方は無理だと思い、踏襲するのは経営理念としました。そして、やり方は自分の身の丈にあったものにしようと考えました。それで辿り着いたのが「1人の100歩より、100人の1歩」です。この考え方で組織をまとめて行くこととしました。とは言え、具体的に何をすれば良いのかも分からなかったため、取り急ぎ、必要な知識を身につけて色んなセミナーを受講しました。そんな中、知人から紹介されたのが「哲師塾」でした。「哲師塾」はトヨタ自動車の副社長、初代トヨタホームの会長などを務められた清水哲太（のりたか）氏が塾頭の中企業者の若手経営者の塾です。その5期生として2019年に入塾しました。この塾では学習するだけではなく、それを実際の経営に落とし込むまで清水塾頭から直接指導していただけだったので、私自身や自社に足りなかったものをかなり補うことが出来ました。そのお陰もあり、エイヤ的な経営から、数値化した方針管理へと成長できました。

哲師塾の塾生期間を終えてから、次なる学びを2022年に松下幸之助経営塾に入塾しました。少年時代に勉強を疎（おろそ）かにしていた反動が今頃になって出てくるのかもれません。哲師塾が実践的な学びだったのに対して、松下幸之助経営塾は経営者としての心構えや考え方を教えていただきましたので、それぞれに違った学びを得る機会となりました。

自分が学んだことを会社方針としてまとめ、管理職に共有し、現場に落とし込んでいく流れで、今は取り組んでいます。次のステップとして、全従業員が主体的に動く仕組みを作り、本当の意味での「100人の1歩 経営」を目指し、取り組んでいきたいと考えています。

自己成長だけでなく、コースのブラッシュアップについても、涼仙のコース設計士である佐藤忠志先生に相談し、今、先生が考える涼仙コースの完成形を図面化していただきました。その図面に沿って改修したホールは、こちらの4番、ショットホールです。

4番ホール以外にも、これだけのプランがあります。短期間で行える内容ではありませんので、ひとつひとつ経営に支障が出ないよう実施して、できれば30年以内に全ての改修を完了したいと考えています。

そして、私の最後の学びの場として、自分の不足している経験や経営者としての心構え・知識を、ここ名古屋瑞穂ロータリークラブの円熟された先輩から学び、自己成長に繋げ、そして会社を発展させ、社会に貢献していきたいと考えています。拙いスピーチを最後までお聞きいただき、ありがとうございます。今後ともご指導のほど、よろしくお願ひいたします。発表は以上です。

例会のご案内

■今週 4月23日（木）I.D.M.

場 所：愛知芸術文化センター 10F「ウルフギャングパック」

時 間：受付17:30 例会18:00～終了20:00予定

■次週 4月30日（木）R規定により休会

■次々週 5月7日（木）R規定により休会